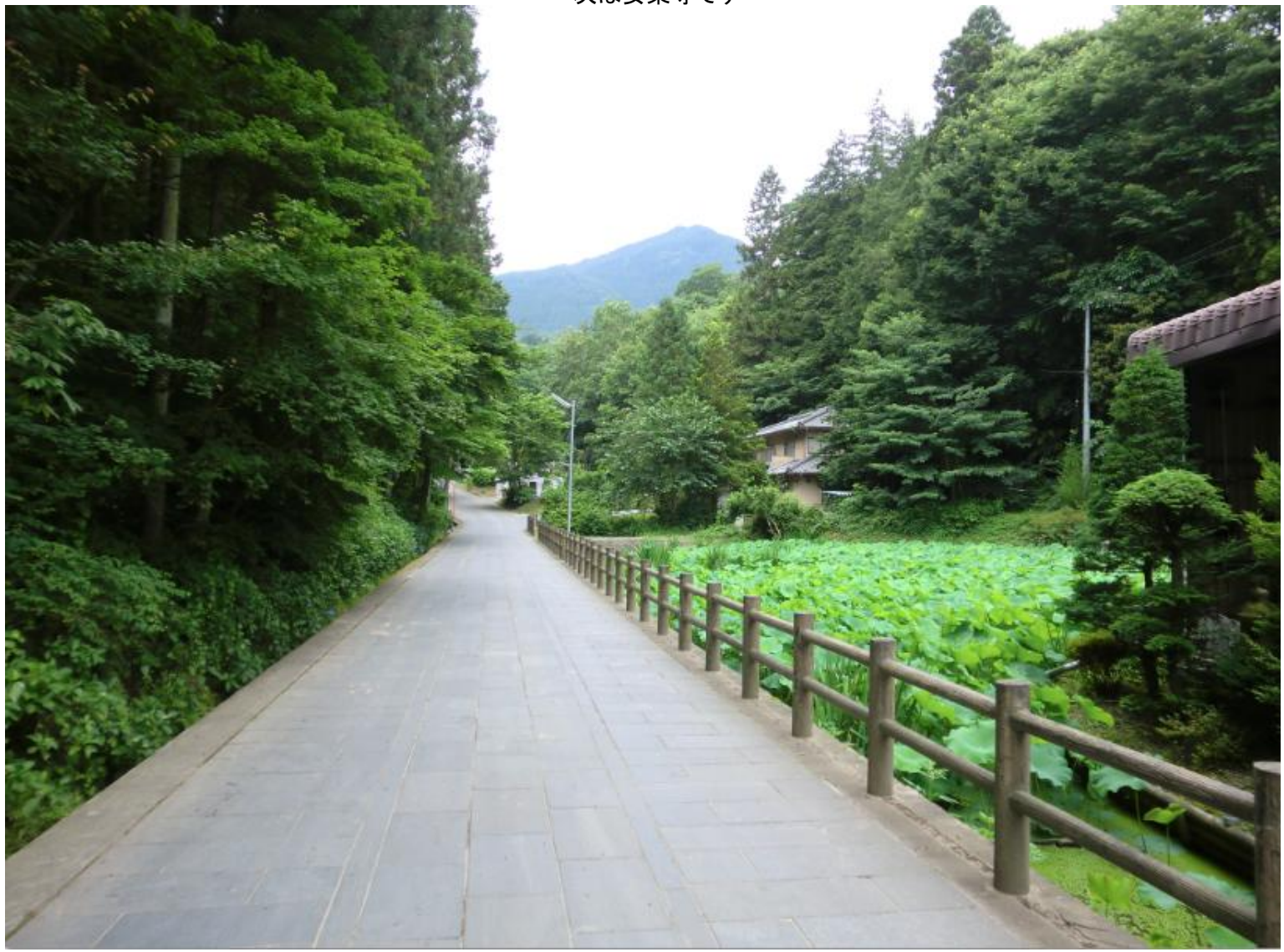
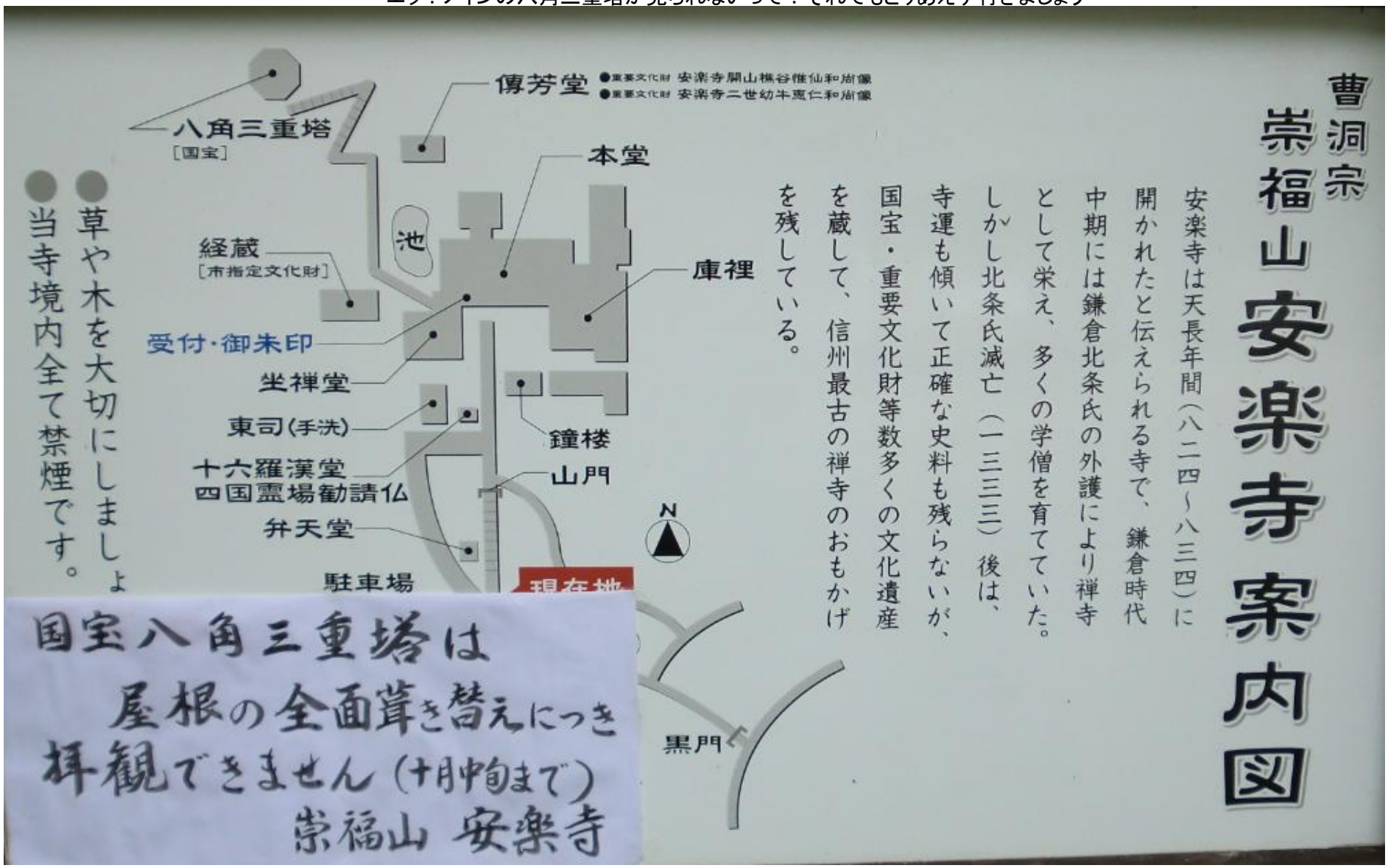
次は安楽寺です



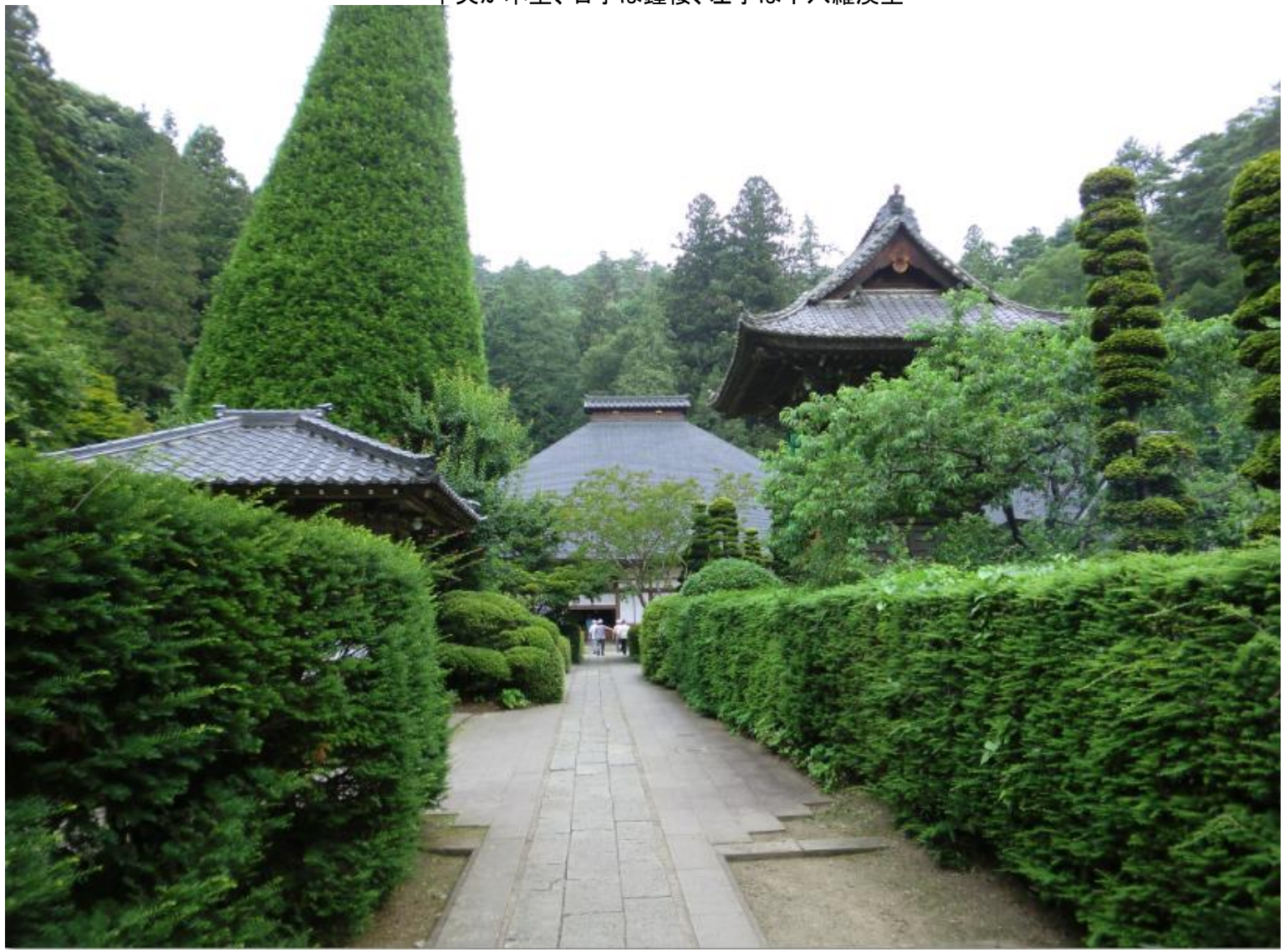
エッ！メインの八角三重塔が見られないって！それでもとりあえず行きましょう



国宝八角三重塔は
屋根の全面葺き替えにつき
拝観できません（十月中旬まで）
崇福山 安楽寺

山門から本堂方向を見る

中央が本堂、右手は鐘楼、左手は十六羅漢堂



鐘楼

十六羅漢堂

本堂

左手が本堂、右手は庫裡

庫裡

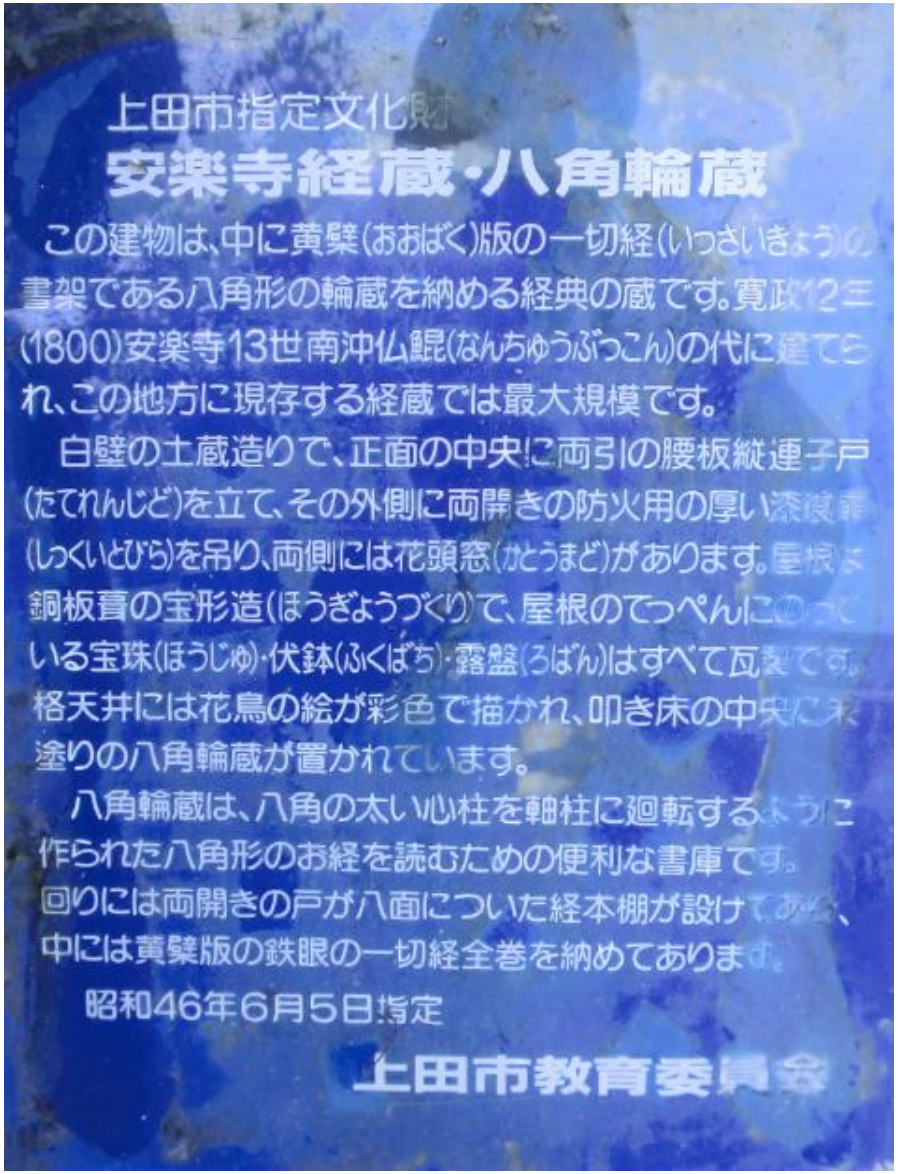
本堂玄関

左手は坐禅堂

坐禅堂

右手が本堂

経蔵/上田市指定文化財



上田市指定文化財

安楽寺経蔵・八角輪蔵

この建物は、中に黄檗(おおばく)版の一切経(いっさいきょう)の書架である八角形の輪蔵を納める経典の蔵です。寛政12年(1800)安楽寺13世南沖仏鯤(なんちゅうぶっこん)の代に建てられ、この地方に現存する経蔵では最大規模です。

白壁の土蔵造りで、正面の中央に両引の腰板縦連子戸(たてれんじど)を立て、その外側に両開きの防火用の厚い漆喰扉(しっくいとびら)を吊り、両側には花頭窓(かとうまど)があります。屋根は銅板葺の宝形造(ほうぎょうづくり)で、屋根のてっぺんにのっている宝珠(ほうじゅ)・伏鉢(ふくばち)・露盤(ろばん)はすべて瓦製です。格天井には花鳥の絵が彩色で描かれ、叩き床の中央に木塗りの八角輪蔵が置かれています。

八角輪蔵は、八角の太い心柱を軸柱に廻転するように作られた八角形のお経を読むための便利な書庫です。回りには両開きの戸が八面についた経本棚が設けてあり、中には黄檗版の鉄眼の一切経全巻を納めてあります。

昭和46年6月5日指定

上田市教育委員会

八角輪蔵

黄檗版蔵経（おうばくばんぞうきょう）
上田市指定文化財
安楽寺の経蔵（市指定文化財）の八角輪蔵という書架に収納されている経本。全部で1，618冊（6956巻）が275の帙（書物を包むおおい）に納められている。これはその内の一つの帙である。
黄檗版蔵経とは、明から日本に渡って黄檗宗を開き、その本山である黄檗山万福寺（京都府宇治市）の開山となった隠元（1592-1673）の弟子鉄眼（1630-1683）が刊行した仏教関係の大叢書。隠元が明からもたらした大蔵経を、鉄眼が復刻したもので、鉄眼版大蔵経または鉄眼の一切経とも呼ばれる。その4万7，000枚にものぼる版木は現存し、重要文化財に指定されている。
安楽寺のこの黄檗版蔵経もこの版木から刷ったもの。寛政12年（1800）に版元（万福寺宝蔵院）から購入した全巻が、今に完全に伝わっている。
別所　安楽寺蔵

八角三重塔を目指し、更に登ります

本堂の屋根

八角三重塔ですが、残念ながら足場が架かっていました

大日如来

水子地蔵尊

左手は傳芳堂

国宝八角三重塔の本尊「大日如来」もここに一時避難の状態（手前）/後ろの二体の和尚像は共に重要文化財

紫陽花が見頃であった

農民解放活動家たちの祈念碑もあった

山本宣治 高倉・テル 齋藤房雄 記念碑について

昭和初期の大恐慌の中、上小（上田・小県）農民組合連合会が結成され、小作料値下げ、土地取り上げ反対などの運動に立ち上がった。

これよりまえ、上田自由大学の講師として別所に在住していたタカクラ・テル（高知県出身、文学者、日本共産党衆・参議院議員）は農民運動・民主主義と社会進歩の運動に指導的役割を果たした。

一九二九年三月一日、上小農民組合連合会は第二回総会にタカクラの義兄弟にあたる山本宣治（京都府出身、生物学者、労農党代議士『山宣』）を招く。

この記念講演は一千名を超える聴衆に深い感動を与えた。

この講演から四日後の三月五日、山宣は治安維持法改悪承認の議会にただ一人反対演説をすべく上京したが、その夜右翼によって暗殺された。

上小農民組合連合会は山宣の死を悼み、追悼大会の決議により抗議の記念碑を翌年五月一日（メーデー）にタカクラの借家の庭に建立した。

一九三三年二月治安維持法による県下最大の弾圧事件であった『二・四事件』でタカクラ・テルは逮捕、家族は県外追放となった。

警察は家主の齋藤房雄に、碑の取り壊しを命じてきたが、氏は碑を密かに自宅（旅館柏屋別荘）の庭に埋め、三十八年間守り通した。

戦後、この碑の再建委員会を結成、多くの協力者を得て一九七一年十月、碑はこの地に再建された。

碑の全面に彫られたラテン語は、山宣座右の銘『生命は短し科学は長し』の意である。なお、碑面の文字はタカクラの筆である。

タカクラ・テルは一九八六年四月に亡くなり、記念碑は一九八八年十月山宣の碑に並べて建立された。齋藤房雄記念碑は二〇〇六年山宣碑再建三十五周年記念事業で建立した。

長野山宣会
事務局　平林堂書店内
TEL〇二六八(二七)一八一〇

斎藤房雄氏を顕彰する碑の建立について

全国唯一つ戦前に建立された山本宣治追悼記念碑（講演記念碑）が一九三〇年五月一日に建立されて今年で七六年、戦後再建（一九七一年一〇月）されてから三五年目を迎えました。この碑の存在は、はかり知れない多くの人びとに「山宣」の業績の偉大さを示し、遺志を継ぐ決意を高めてきました。

この日本の宝ともいえる碑が今日ここに存在する上で忘れてはならないのは斎藤房雄氏であります。斎藤房雄氏は一八九八年（明治三一年）二月一二日、北佐久郡春日村（旧）桜井家に生まれ、上田中学、早稲田大学を卒業し、親戚の旅館、柏屋別荘に養子として迎えられ、二七才にして村会議員となり、町村合併時には村長を務めていました。三等郵便局長のとき叙勲の話しを断っていたなど多くの人に尊敬され、また凛とした気骨も持ち合わせておりました。氏は一九八一年七月一六日逝去（享年八四才）されて二五年が過ぎました。

長野山宣会は二〇〇六年三月の第三四回総会に於いて、山本宣治追悼記念碑再建三五周年記念事業として三つの課題を掲げ、その重要な一つとして斎藤房雄氏を顕彰する碑の建立を決議しました。

山本宣治は追悼記念碑の碑文にも明彫にされていますように、世界戦争の撲滅、治安維持法の改悪に反対し、凶暴な弾圧を糾弾し、勤労者の生活を守るために、心の底から大衆を信頼し、必ず労働者、農民が決起することを信じて奮闘し、権力の手先、右翼の凶刃によって尊い生命を奪われました。

「山宣」倒るの報は全国多くの人びとを暗澹とさせ深い悲しみに陥れました。しかしこの悲しみは心の底からの激しい怒りとなり、全国各地で一斉に行われた労農葬に示されたように「山宣」の遺志を継ぐ決意を高めるものとなりました。

この山本宣治追悼記念碑は上小地方の労働者、農民の権力に対する抗議の意志を秘めたものであり「山宣」の意志を継ぐ決意を示したものでした。

碑は戦闘的農民組合の力でつくられましたが、建立するうえで最初の難問は建立する場所が権力の妨害で許可されません。村議会でも議員の斎藤房雄氏が別所への建立のため尽力されましたが反対され「自分の土地へ建てる」と言ったら、「それは勝手だ」ということになり、タカクラ・テル氏の借家の庭の一部に建てられることになり五月一日、メーデーの朝除幕式が行われました。

それから三年後一九三三年（昭和八年）治安維持法にもとづく全国的大弾圧が行われ、三・一五、四・一六弾圧の数倍にあたる検挙者一八三九七人を数え、特に長野県は二・四事件中心に他の年に比べ十倍にも及ぶ七四三人が検挙されました。

そのような情勢のなかで斎藤房雄氏は上田警察署に呼び出され、碑を壊し始末書を出せと言い渡されました。このときタカクラ・テル氏は逮捕投獄され、労働者、農民の活動家も殆ど検挙され、タカクラ・テル氏の家族も県外追放という処分をされ、碑を守れるものはおりませんでした。この困難な事態のなかで斎藤房雄氏はどうしても碑を守らなければと決意し、夜密かに旅館の柏屋別荘の庭に運び池の縁に埋め込み、警察署には完全に壊したと始末書を出し守ってくれました。当時の情勢はこの事実が明らかになれば検挙、拷問、死をも招きかねないことも覚悟しなければ出来ないことでした。この斎藤房雄氏の勇気と機知により、碑は破壊から守られ三八年後に再建することが出来たのであります。

さらに碑の再建を機に長野山宣会が結成され、今日まで活動が継続していることも斎藤房雄氏あってのことであります。

ここに業績の一端を記し顕彰の辞とします。

二〇〇六年一〇月二二日

記念碑再建三五周年記念実行委員会

長野山宣会　会長　荒井俊信

解体修理見学会が行われる予定

現場見学会の開催要領（事前申込が必要です）

期日	見学のポイント(予定)
7/30	足場からこけら板を撤去する直前の現状を見学します。相輪が修理のために下ろされています。
8/20	古いこけら板が矧(は)がされ、屋根が野地板(下地)だけとなった状態を見学します。
9/10	新しいこけら板を葺きこんでいる様子を見学します。
10/1	竣工した三重塔を

見学会開催日時

7/30、8/20、9/10、10/1の4回　いずれも午前10時から

見学会定員

工事現場の安全管理のため、各回とも定員60人とします。申込多数の場合は抽選とします。

見学会申込

- 往復はがきで安楽寺へ申し込んでください
- 往信の通信欄に、郵便番号・住所・氏名・電話・第１～第４希望日まで記入してください。
- 復信宛先に返信先(申込者の郵便番号・住所・氏名)を記入してください
- 小中学生は保護者同伴とし、保護者の氏名も記入してください。
- 7/10必着、抽選結果を7/15復信で通知します

申込先

- 安楽寺（〒386-1431 長野県上田市別所温泉2361）

お問合せ

- 安楽寺（TEL0268-38-2062）午前9時～午後4時厳守

見学の際の留意点

- 復信はがきが入場券となりますので、必ずご持参ください。
- 駐車場が狭いため、公共交通機関等をご利用ください。
- 見学の際は、工事用足場の狭く急な階段を上ります。健康状態や服装・履きもの等にご留意ください。
- 拝観料300円をいただきます。

申込はがきの書き方

往信あて先	復信通信欄
〒386-1431 別所温泉2361 安楽寺御中	

復信あて先	往信通信欄
申込者 〒 住所 氏名	住所 氏名 電話番号 第１希望日 第２希望日 第３希望日 第４希望日

記念講演会の開催要領（どなたでも参加できます）

期日	会場	演題(いずれも仮題)	概要	講師	講師略歴
7/30（土）午後2時	塩田公民館	安楽寺八角三重塔の建築史的意義	日本に唯一の八角三重塔は、年輪年代測定により13世紀末の建築であることがほぼ確定された。その建築の歴史的な意味を市内・国内の三重塔や仏教建築を網羅しながら概観する。	吉沢政巳	1954年、伊那市生まれ。長野県文化財保護審議会委員。上田市文化財保護審議会委員。NPO法人信州伝統的建造物保存技術研究会副理事長。工学博士。専門は建築史。上田では、近代建築や社寺建築、民家建築などの調査のほか、歴史的建造物の保存に尽力する。
8/20（土）午後2時	あいそめの湯	安楽寺蘭渓道隆尺牘 ～中世鎌倉と塩田との交流～	鎌倉建長寺開山第一世の蘭渓道隆(1213～1278)が、安楽寺の開祖樵谷惟仙に宛てた書状を軸に、安楽寺及び塩田平と鎌倉とのつながりを探求する。	櫻井松夫	上田市文化財保護審議会会長。上田市誌をはじめ、上田小県地域の市町村誌編纂に主導的な立場で関わる。また東信史学会副会長や上田・千曲・小県地域史連絡協議会長等を歴任し、地域史研究をリードしてきた。現在は、上小仏教文化研究会長として活躍している。主な編著書に「津金寺史」「ふるさとの地名語源」等がある。
9/10（土）午後2時	あいそめの湯	安楽寺の歴史と信仰	古代に別所温泉三楽寺(安楽寺・常楽寺・長楽寺)のひとつとして創建され、中世以降禅宗寺院として発展した安楽寺の歴史と信仰を学ぶ。	若林恭英	安楽寺住職　シャンティ国際ボランティア会(ＳＶＡ)会長。SVAの前身である「曹洞宗東南アジア難民救済会議」（１９８０年発足）以来活動に参加。各地の難民キャンプでボランティアとして救援事業に携わった。師僧の故若林順天氏もまたＳＶＡの顧問を務めたほか、難民支援などが評価され外務大臣表彰（１９９３）を受賞した。
10/1（土）午後2時	塩田公民館	塩田平の仏像と安楽寺の頂相彫刻	中世の仏教肖像彫刻(頂相)の頂点に位置する「樵谷惟仙」「如牛意仁」両像を軸に、塩田平や長野県の仏教美術史について概観する。	武笠　朗	日本仏教美術史専攻。主要著作に『平等院と定朝』（『日本美術全集』6）講談社、1994。『カラー版日本仏像史』（水野敬三郎監修）美術出版社、2001。『信州の仏像』しなのき書房、2006。東京芸術大学大学院美術研究科修士課程修了。東京芸術大学美術学部助手、福井大学教育学部美術科助教授を経て実践女子大学へ。長野県文化財保護審議会委員。上田市出身。

（主催）　安楽寺
（共催）　上田市教育委員会、上田新自由大学歴史学教室、塩田平文化財研究所、塩田平文化財保護協会、塩田の歴史・文化を学ぶ集い、上小仏教文化研究会、東信史学会
（後援）　上田市、しおだっ子応援団
（時間）　午後2時～4時
（ほか）　入場料は無料です。駐車場が狭いため、公共交通機関ご利用や乗り合わせに御協力ください。
（問合）　上田市教育委員会事務局文化振興課　電話0268(23)6361 Eメールbunka@city.ueda.nagano.jp

●安楽寺全景

●八角三重塔拝観料／300円（小・中学生100円）
●八角三重塔拝観時間／夏季8:00～17:00（3月～10月末）
冬季8:00～16:00（11月～2月末）
※本堂等のお参りについては、この限りではありません。（無料）

ご案内

塩田平四国霊場札所めぐり

今から約300年前の元禄年間、この地「塩田平」のお寺や御堂に四国八十八ヶ所霊場の仏様が迎えられ、お遍路さんで賑わいました。近年この巡礼が復興され、改めて注目を集めています。詳しくはお寺までおたずねください。

安楽寺に勧請された仏様は次の通りです。

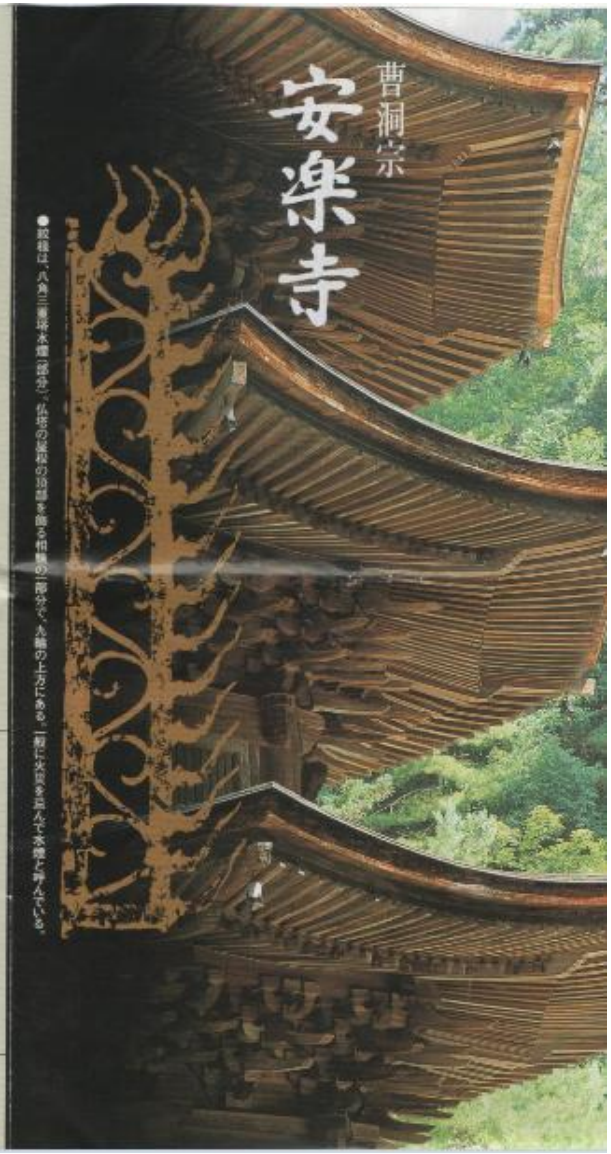
●九番	釈迦如来	法輪寺	徳島県
●十五番	不動明王	国分寺	徳島県
●二十四番	虚空蔵菩薩	最御崎寺	高知県
●二十六番	薬師如来	金剛頂寺	高知県
●四十一番	十一面観音菩薩	龍光寺	愛媛県
●五十三番	阿弥陀如来	円明寺	愛媛県
●七十番	馬頭観音	本山寺	香川県
●八十番	十一面千手観音菩薩	国分寺	香川県

宗教法人 曹洞宗 安楽寺
〒386-1431 長野県上田市別所温泉2361
TEL0268-38-2062 FAX0268-38-2133
http://www.anrakuji.com

32152

曹洞宗

安楽寺



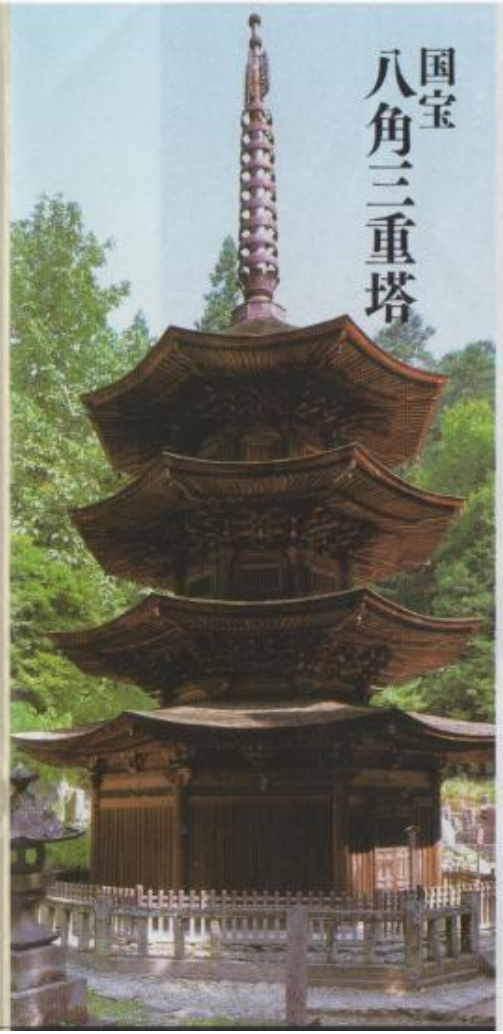
●紋様は、八角三重塔水煙（部分）。仏塔の装飾の19層を重ねる相輪の一部分で、九輪の上方にある。一説に火災を忌んで水煙と呼んでいる。

安楽寺本堂

安楽寺

建長（鎌倉の建長寺）と塩田（安楽寺）とは各々一利により、或は百余衆或は五十衆、皆これ聚頭して仏法を学び、禅を学び、道を学ばんことを要す云々。これは大覚禅師語録（建長寺開山蘭溪道隆）の一節である。これにより安楽寺は、鎌倉時代中期すでに相当の規模をもった禅寺であり、信州学海の中心道場であったことがうかがわれる。鎌倉北条氏の外護によって栄え、多くの学僧を育てていたこの寺も、北条氏滅亡（1333）後は、寺運も傾いて正確な記録も残らないが、国宝、重要文化財等数多くの鎌倉時代の文化遺産を蔵して、信州最古の禅寺のおもかげを残している。

また、当寺は安土・桃山時代に勅特賜・大光智勝禅師高山順京大和尚により、同じく禅を標榜する曹洞宗に改められ、現在に至っている。



国宝 八角三重塔

●内部

●詰組

国宝八角三重塔の建立年代について

建立年代については、鎌倉時代末期から室町時代初期までの間といわれてきたが、平成十六年、奈良文化財研究所埋蔵文化財センター古環境研究室の光谷・大河内両先生の調査の結果、三重塔用材の伐採年代は正應二年（1289）と判明、1290年代（鎌倉時代末期）には建立された、わが国最古の禅

安楽寺前開山 樵谷惟仙和尚像
（重要文化財）

惟仙は、鎌倉時代の中期、宋に渡って修学し、寛元4年（1246、鎌倉時代）鎌倉建長寺開山蘭渓道隆と同船帰朝して後、安楽寺を開いた人である。

安楽寺前二世 幼牛恵仁和尚像
（重要文化財）

恵仁は幼牛と号し、惟仙にしたがって来朝して、安楽寺二代となった中国僧である。この像も墨書銘により、嘉暦4年（1329、鎌倉時代）に造られたことがしられる。

経蔵 上田市指定文化財

寛政16年（1794、江戸時代）宇治の黄檗山萬福寺から購入した鉄眼の一切経を保管するために建てられた方3間、ぬりこめ、宝形造、銅版葺の経蔵で、この種の建物の代表的なものである。

輪蔵（経蔵内部）
上田市指定文化財

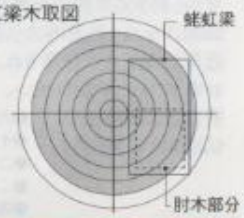
傅大師によって考案されたといわれる回転式書棚のような輪蔵は、八角形で看経（経を読むこと）の便に造られている。この輪蔵を回転すれば、だれでも看経と同じ功徳にあずかることが出来るといわれている。因に輪蔵には古来から必ず傅大師をまつる習慣がある。

塔は本堂の裏を登った山腹にあり（別掲全景写真参照）松の緑に映えて、重厚なたたずまいがどっしりと空間を支えている。建立年代は従来鎌倉末期、又は、室町初期といわれていたが、安楽寺が北条氏の外護によって栄えた寺で、開山が入宋僧、二世が中国よりの帰化僧であることなどから、寺運の最も栄えた鎌倉時代末期に建てられたものとの考えが有力視されていたところ、最近科学的な光があてられ、これが証明された。

建築様式は禅宗様（鎌倉時代に宋から禅宗に伴って伝来した様式で唐様ともいう）八角三重塔で、初重に裳階（ひさし又は霧よけの類）をつけた珍しい形式であるうえに細部もまた、禅宗様の形式からなり類例が少ない。

宗様建築であることが証明された。

●蛇虹梁木取図



●伐採年が判明した蛇虹梁